

(九) 本議定書ハ右基本條約ト同時ニ實施セラレ一九三七年三月二十一日迄有效ナリ

*事項編注

大藏省財政史室所蔵史料より補填・採録した文書に付されている移牒番号(移牒第〇〇〇號)は、日印会商に關し外務省が送付した電報写に大藏省側が付したものである。

九 雜 件

1 一般問題

473

昭和9年3月10日 在仏国佐藤大使より

広田外務大臣宛(電報)

仏國新内閣の成立にあたり同國新首相および
新外相をそれぞれ表敬訪問について

パリ 3月10日後発
本省 3月11日前着

⁽¹⁾「ズーメルグ」内閣組閣早々多忙ノ際態ト遠慮シ九日同首相及「バルツウ」外相ヲ各別ニ往訪ス

「首相ニ對シテハ本使ヨリ先ツ帝國政府ノ名ニ於テ敬意ヲ表ス可ク來訪ノ次第ヲ告ケ日佛兩國間ニ永年ノ間幸ニシテ重大ナル困難無ク國交敦厚ナルヲ得タルノミナラス日支紛争中佛國輿論ノ大部分カ終始帝國ニ對シ好意的ニシテ日本ノ立場ヲ了解シ居リタルハ誠ニ日本國民ノ多トスル處ニシ

テ困難ナル環境ニ陥リテ一層佛國民ノ友誼ヲ味ヒ得タリト述ヘタルニ對シ首相ハ極メテ懇懃ナル態度ニテ本使ノ來意ヲ謝シ佛國人ハ日本人ノ秩序ヲ尊ヒ愛國心ノ横溢セルニ對シ深甚ノ敬意ヲ拂フモノニシテ殊ニ自分個人トシテハ貴大使ノ先任者及其ノ他ノ日本人中ニ友人ヲ有シ且往年印度支那ニ在住シ極東事情モ承知シ居ル事故一層日本ニ對シ親ミヲ感スル次第ニテ今後モ兩國間ノ了解ヲ深カラシムル爲充分努力ス可シト述フ本使ハ進テ兩國間ニハ一二經濟問題ノ困難有ルモ之トテ第二次的性質ノモノニテ兩國政府ニ好意タニ有ラハ満足ナル解決ヲ見ル事困難ナラサル可ク少クトモ日本政府ハ充分ノ好意ヲ有スト述ヘタル處佛國ハ不幸ニシテ何レノ國トモ通商上ノ困難ナル問題ヲ有シ現ニ英國トハ通商條約サヘ破棄スルニ至レルモ幸ニ國交ニ影響スル事無ク兩三日中ニ商工大臣渡英シ新ニ兩國間通商關係樹立シヲ試ムル筈ナリ貴大使モ外務及商工兩關係大臣ト虛心坦懷會談セラル可ク満足ノ解決ニ到達スル事不可能ナラサル可

シ國交改善ノ要諦ハ充分ナル會談ニ有リ國交上ノ障礙ハ主トシテ意思疏通ノ不充分ニ基キ惡意ニ出ツル場合ハ割合ニ少シト答フ

二、次テ外務大臣ニ面會先ツ日支關係ニ付佛國輿論ノ同情ヲ多トル旨述ヘタルニ對シ同大臣ハ組閣早々未タ各國大使訪問ノ機會ヲ得ストテ陳謝ノ意ヲ表シタル後佛國人ノ日本ニ對スル尊敬心及同情ハ先天的ナルト同時ニ合理的ニシテ凡テノ國際狀況ヲ通觀打算シ依然先天的同情ヲ失ハサルモノナリト答ヘ通商問題ノ障礙ニ關シテハ商工大臣多忙且近ク渡英ニ付日本トハ未タ交渉ヲ開始スルニ至ラサルモ(外相ノ口吻ニテハ日本トモ近々交渉開始ノ筈ナル如ク感セラレタリ)

自分ノ一通り心得タル所ニ依レハ満足ナル解決ニ達スルコト不可能ナラスト信ス要ハ双方打明ケテ協議スルニアリト述ヘタルニ付本使ハ同大臣ノ見込ノ通り進行センコトヲ祈ル旨答ヘ本使トシテモ衷心日佛間ノ通商増進ヲ希望スルモノニシテ佛國內ニ於テ日本側ノ買付モ市場ノ條件ノ許ス限リ之ヲ増大スヘクスクリシテ相對的ニ日本品輸入モ增加セラルヘク此ノ方面ノ研究ヲ遂ケ度ク考ヘ居ルモノニシテ何レ

ニスルモ現在ノ口佛間ノ貿易高ハ通商上ノ困難ヲ取立テ問題トル程ノ重要性ヲ有セスト述ヘ轉シテ極東問題ニ關シ本使着任ノ頃佛國內一部人士間ニハ日米(脱?)ヲ阻害スル結果ヲ來タシ佛ニ取り利ラス(脱?)日本ハ其ノ欲スル儘ニ任スヘク佛トシテハ米トノ提携ヲ選フヘシトノ意見行ハル由聞及ヒ居リスクテハ本使トシテ聊カ不安無キ能ハス極東ニ於テモ一大強國タル佛國カ日本ノ地位如何ハ其ノ關係處ニアラス日米關係又然リ唯佛米關係ノミ顧慮スレハ足ルト言フニ至リテハ日本トシテハ失望ヲ感シ得サルヘシ推論シ大臣ノ意見ヲ叩キタル處大臣ハ言下ニ右ノ如キ見解ハ假令一部ニ行ハルトスルモ世界ヲ通覽シテ國策ヲ論スル佛國人ノ信念ニアラス成程佛ニ取りテハ米モ必要ナリ支那トモ友邦タリ併シ極東ノ日本トハ利害相通スル處多ク殊ニ提携ヲ要スル次第ナリト切言ス

軍縮問題ニ關シ本使ハ現時ノ歐洲ニ於ケル障礙解決セラル迄ハ日本ハ第二次的地位ニ引退カサルヲ得サルモ歐洲問題ノ解決ハ必スシモ極東問題ノ解決ヲ意味セス此ノ點「ヘンダーソン」ニモ再三申述ヘタリト述ヘ(外相之ヲ肯定シ居レリ)更ニ進シテ來年ノ海軍會議ニ言及シ日本ニ取りテ

ハ極メテ重要ナル會議ニシテ極東ノ平和ノミナラス世界和平ニモ影響スル所大ナル可キニ付日本政府ニ於テモ會議前ノ準備的措置及地均シニ付慎重攻究中ト思考スル旨述ヘタル處外相ハ本問題ハ自分ノ未タ全然研究シ居ラサル唯一ノ重要案⁽²⁾付テハ來年ノ會議ニ附議セラル可ク聯盟ノ軍縮會議ニハ上程セラレサル可シトノ話有リタルヲ聞キタルノミナリ尤モ其ノ内研究ニ着手ス可ク海軍大臣「ピエトリ」氏ハ各般ノ事情ニ通シタル人物ナレハ本使ニ於テ會談スル事有用ナル可シト勧メタリ

蘇聯問題ニ關シ本使ハ日蘇間一時緊張ノ外觀ヲ呈シタルモ

最近緩和セラレ諸般ノ懸案交渉再開セラレタルモノノ如ク何レニシテモ戰爭ノ危險ハ先ツ無キモノト見テ誤無カル可シト思考スト述ヘタル處夫ハ誠ニ善キ事ナリトテ安堵ノ模様アリ且佛國內ノ共產の宣傳ハ近頃著シク下火トナレリト言ヘルモ蘇ノ態度ニ付テハ可成リ疑惑ヲ有スル様子ニ見受ケラレタリ

三、本日ノ會見ニ於テ兩相トモ極メテ懇懃友好的ノ態度ヲ示シ日本ニ對シ頗ル好感ヲ有スルヤニ感知セラル且滿洲問題

第八二號(極秘)

474 昭和9年4月20日 在獨國永井大使より
広田外務大臣宛(電報)

ヒトラー内閣成立以後の日独関係の良好化等
に關しノイラート外相と意見交換について

ベルリン 4月20日後發
本省 4月21日前着

十八日外相トノ會談ニ於テ本使ハ「ヒツトラー」政府トナリテ以來日本ニ對スル獨逸國民感情カ改良セラレタル様感セラルル處右ハ本使ノ感ノミニ止ラス當地一般ノ感想ト認メラルル事ヲ述ヘ同大臣カ其ノ原因ヲ如何ニ考ヘ居ルヤフ問ヒタルニ外相ハ獨逸國民ハ嘗テ軍及學問ノ上ニ日本ニ貢獻シタルニ拘ラズ日本カ大戰ニ於テ敵方ニ參加シタル事ヲ非常ニ感シ居リタルモ戰後獨逸國民モ日本ニ反敵惡意無キ事ヲ次第ニ知ルニ至リタルカ現政府樹立セラレテ以來其ノ

指導精神ハ日本ノ夫レト甚タ相似タルモノアリ
是レ兩國ノ關係カ良好ナル原因ト思考スト述ヘタルニ付本
使ハ更ニ之ニ加ヘテ日本カ東洋ニ於テ「ボルシエビズム」
ノ防壁タルニ對シ獨逸カ歐洲ニ於テ同様ノ地位ニ在ルコト
カ最モ強キ原因ナルヘキ旨述ヘタルニ外相モ同感ヲ表シタ
リ依テ本使ハ日本ハ滿洲國ニ軍隊ヲ止メ居ルモ右ハ全然東
洋ノ平和維持ノ爲ニシテ何等他意無ク從テ蘇聯邦ト事ヲ構
フル意毛頭無シ然レ共若シ蘇聯邦側ヨリ原因ヲ與フルニ於
テハ日本ハ一擊ヲ加フル用意アルコトヲ述ヘ全然假說ノ問
題トシテ萬一斯ルコトアル場合獨逸ハ日本ニ同情又ハ協力
ヲ與フヘキヤヲ問ヒタルニ外相ハ獨逸ハ蘇聯邦トノ紛争ニ
捲込マルコトヲ欲セサルコトヲ強ク述ヘ獨逸ニ付テハ其
ノ東方經略ナルモノカ他國ニ於テ頻リニ云々セラレ居ルモ
獨逸ハ露國ノ領土ニテハ勿論豫想シ得ヘキ將來ニ對シ「バ
ルチツク」國ニ對シテモ何等企圖ヲ有セス獨逸ノ對蘇國策
ハ一方「ボルシエビズム」ノ侵入ハ嚴シク之ヲ彈壓スルモ
他方正常ノ國交ヲ維持セントスルニ有リ經濟關係上露國力
獨逸ニトリ重要ノ市場タルニ鑑ミ之ヲ增進セサルヘカラサ
ルハ當然ナリト述ヘ尙本使ノ問ニ對シ獨逸ハ見通シノ著シ
アリ度シ

在歐各大使(土ヲ除ク)へ轉電セリ

475

昭和9年8月16日 在獨國永井大使より

廣田外務大臣宛(電報)

日本は獨國內ユダヤ人五万人の滿州國移住を歛
迎するとの杉村大使談話報道の真相につき照会

ベルリン 8月16日後発
本省 8月17日前着

第一七八號

十二日維納「ノイエ、フライエ、ブレッセ」ハ猶太電報社
東京通信トシテ杉村大使カ日本ハ獨逸ノ猶太人五萬人ノ滿
洲國移住ヲ歡迎スヘシト述ヘタル旨ノ報道ヲ掲載シタル爲
猶太人社會ノ注意ヲ惹キ各方面ヨリ當館ニ問合アリ本件報
道ハ何等カノ誤報ト想像セラルモ右ニ關スル真相御回電
送セリ

476 昭和9年8月20日 広田外務大臣より
在獨國永井大使宛(電報)

コダヤ人問題に関する杉村大使談話報道は新聞

次ニ本使ハ露國加入問題ニ言及シ露國トシテハ日獨脱退後
ニ於ケル對日及對獨的措置トシテ之ヲ考フ可ク又佛國等ニ
之ヲ支援スル形勢アル處軍縮ノ如キ特殊ノ現状ハ已ム無キ
モ聯盟員トシテノ露國ノ加入ハ其ノ建國ノ主義ニ根本的ニ
反スル國家ヨリナル聯盟トシテ之ヲ阻止スルコト當然ナラ
スヤト私見トシテ之ヲ述ヘ尙獨逸ハ再ヒ聯盟ニハ戻ルコト
アル可キカラモ併セ所見ヲ質シタル處外相ハ聯盟現状ノ態
度ニテハ再起ハ夢想ダニセストテ聯盟ニ對シ稍冷淡ナル口
吻ヲ以テ露國ノ加入問題ニ付テハ確ト聞キ居ラサル處愈參
加ノ儀起ラハ聯盟側ヨリ露國ニ對スル條件モアル可ク露國
ハ之ヲ承認ス可キヤ疑ハシク加入云々ハ蘇側カ政略的ノ云
ヒ觸ラシニ過キサル可シト(脱)ノミナラス更ニ若シ右實現
シタリトモ却テ露カ掣肘セラルコトナル可ク妙ナラン
ト附言シ本問題ニハ餘リ關心ヲ有シ居ラサル感想ヲ與ヘタ
リ

ク近キ將來ノ問題トシテ「ソビエツト」政權カ顛覆スルコ
トアルヘシトハ考ヘス況シヤ從來支拂ノ正確ナルニ鑑ミ之
ニ稍長期ノ信用ヲ與フルコトニ付危險ヲ感セサル旨述ヘタ
リ

第九五號

貴電第一七八號ニ關シ

杉村大使ニ問ヒ合ハセタル處客年秋同大使上海立寄リノ際
同地猶太月報社主ニシテ「イズラエルス・メツセンジヤア」
主幹タル「エツラ」ナルモノ大使ヲ來訪シ其ノ持論タル獨
逸ヲ追放サレタル猶太人五萬ノ滿洲國移住(專ラ貿易ニ從
ハシムル建前ナリト言ヘル由)ニ付意見ヲ求メタルコトア
リ大使ハ滿支人トノ競争上ヨリ觀ルモ右ノ可能性稀薄ナル
コトヲ指摘シ格別之ニ取合ハサリシ趣ノ處或ハ「エ」ニ於
テ右問答ヲ誤解若クハ曲筆報道セルモノニアラスヤト推察
セラル

貴電ト共ニ在滿大使及在支公使「奉天」「ハルピン」ニ郵

る対日協調に関する情報について

日伊関係全般に関するムツソリーニとの会談について

上 海 9月25日後発
本省 9月25日後着

(接受日不明)

機密公第三五三號

昭和九年十二月十四日

在伊

當館諜報者カ當地「ナチス」黨員有力者ニシテ「ナチス」
近衛隊ニ屬スル Johann Loch ヨリ聞込ミタル所ニ依レハ
本國ヨリ露國ノ聯盟加入問題ニ關シ左記要領ノ電報ヲ接受
セル趣ナリ

露國ノ聯盟加入ニ依リ歐洲ノ情勢ニ變化ヲ來シタルヲ以テ
獨逸ハ佛蘇同盟ヲ阻止シ其ノ歐洲ニ於ケル地位ヲ擁護スル
爲英國ト友好關係ヲ結フヲ要ス極東ニ關シテハ過去ノ成績

ニ鑑ミ支那ニハ餘リ多クヲ期待シ得ス

一方日本ハ共產主義ニ對スル東洋唯一ノ防壁ナルヲ以テ獨逸ハ日本ト協調スル

ヲ要ス依テ在極東獨逸人ハ直接ニモ間接ニモ日本ニ有害ナル活動ニ參加スヘカラス

満、北平、南京、天津、青島、漢口ニ轉電セリ

昭和9年12月14日 在伊国杉村(陽太郎)大使より

廣田外務大臣宛

(別紙)

「ムツソリニ」トノ會見錄(其ノ六)送付ノ件

十二月十三日「ムツソリニ」トノ會見錄別紙ノ通進達スル
ニ付御查閱相成度尙本件内容ノ省外ニ渡レサル様嚴ニ御配慮相仰度シ

ニ鑑ミ支那ニハ餘リ多クヲ期待シ得ス

一方日本ハ共產主義ニ對スル東洋唯一ノ防壁ナルヲ以テ獨逸ハ日本ト協調スル

ヲ要ス依テ在極東獨逸人ハ直接ニモ間接ニモ日本ニ有害ナル活動ニ參加スヘカラス

満、北平、南京、天津、青島、漢口ニ轉電セリ

昭和9年12月14日 在伊国杉村(陽太郎)大使より

廣田外務大臣宛

(別紙)

「ムツソリニ」トノ會見錄

一、經濟關係

二、文化關係(國際「オリンピック」問題)

三、「エティオピア」問題

四、支那問題

十二月十三日御信任狀捧呈後ノ最初ノ訪問トシテ「ムツソ

リニ」ハ天氣ノ惡シキ日ニハ機嫌惡シ只今會見シタルカ今
日ハ雨天ナレハ談話難澁ヲ極メ困難セリ」云々
先日ノ會見ニテ素氣無ク突放サレタル苦キ經驗モアレハ會
談ノ劈頭「日伊ノ親善關係ヲ增進センカ爲卑見ヲ述ヘタケ
レハ本日ハ相當ノ時間ヲ割愛サレヨ」ト前置シタル後

一、經濟關係

本使ヨリ「日伊ノ貿易額ハ日本ノ總輸出入額ノ三百分ノ
一其對歐貿易額ノ三十分ノ一二過キサレハ日伊兩國ニト
リ然迄重要視スヘキニアラサレト伊國側力現下ノ大勢ニ
押サレテ頻繁ニ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ行ハルハ第一伊
國ノ國情ヨリ見ルモ不可解ナル遺口ト稱スヘク日本モ伊
太利モ其國民經濟ヲ培ハンカ爲ニハ互ニ良キ賣手及良キ
買手トナルヲ念トセサルヘカラス」トテ日伊貿易促進策
ニ關スル「スワイツチ」次官トノ談話ヲ繰返シ「日伊兩
國今日ノ急務ハ現實ニ即セル方策ヲ講シ一日モ早ク將ニ
行詰ラントスル國際經濟ノ情勢ヲ展開スルニ在リ」ト論
ス

「ム」ハ靜ニ本使ノ所說ヲ聽キタル後「今日ハ理論ハ如
何様ニテモ可ナリ國民經濟ノ危局ヲ救濟シ得ヘキ具體的

洲偏重ニ過クルコト東京市ノ決意極メテ固ク飽ク迄素志
ノ貫徹ヲ期シ歐米選手ノ旅費補給ノ方法ヲサヘ講シツツ

アルコト等縷々陳辯シタル上、「斯クナリテハ伊國側ト來年二月「オスロー」ニ開カルル委員會ニテ投票ヲ以テ争フノ外ナク而シテ副島伯日本ヨリ來歐セラルモ本使自ラ出席シテ各國委員ヲ勧説スルニアラサレハ伊國側ニ勝ツコト或ハ覺束ナシト思ハルレハ當然伊國側ノ反感ヲ買フヘキヲ豫期シツツ出席シテ極力運動セント内々決定シ居レリ」ト陳ヘタルニ「ム」ハ苦蟲ヲ漬セルカ如キ顏シテ急ニ笑顔ヲ作り豪放ナル態度ニテ「成程伊太利ノ「スポーツ」關係ノ連中ハ是非一九四〇年ニ開キ度シト熱望シツツアルモ夫レハ未タ(三字分欠)ニシテ自分ノ裁決ヲ經タルモノニハアラス」ト言ヘルヲ以テ「然ラハ尙ホ話合ノ餘地モアルコトナレハ何率(率)十分考慮セラレ度シ大國タル日本力負クルモ又伊太利力負クルモ一國ノ體面上面白カラサルニアラスヤ」ト切言シタルニ「考慮ゼン」ト約セリ(本問題ニ付テハ先ツ英米側ヲ動カシ「ムツソリニ」ヲ牽制スルコト可然ト認メ米國大使目下歸國中ナレハ「ドラモンド」ニ内々盡力方ヲ請ヒ其ノ内諾ヲ得タルカ英國側ハ最近倫敦ニ行ハレタル英伊「フットボール」競技力喧嘩別レトナリタル以來殊ニ伊太利人ノ「スポ

ツ」精神ニ愛想ヲ盡カシ居ル事實アリ又羅馬ノ烈暑ハ歐洲人ノ一般ニ怖ル所ナレハ此際東京市サヘ斷乎タル決心ヲ以テ豫定ノ如ク運動ヲ繼續セス或ハ所期ノ目的ヲ達シ得ヘキカトモ察セラル尙本使ハ「オスロー」委員會前ニ「ム」ヲシテ讓歩セシメン爲此上トモ努力ヲ繼續スル所存ナリ

三、「エティオピヤ」問題

本使ヨリ日本ニ「エティオピヤ」ニ對シ何等政治的野心ナキコト尤モ最近通商關係重要トナリタレハ兩國ノ國交ヲ正常化スルタメ代理公使派駐ノ議アルコトヲ述ヘタルニ

「ム」曰ク「日本側ハ「エ」ニ武器彈藥ヲ供給シ皇太子妃ヲ送リ東京ノ某新聞ノ如キハ盛ニ親善工作ヲ唱導シツツアリト言フニアラスヤ」

本使曰ク「武器彈藥供給ノ事實ナシ皇太子ト稱スルハ虛偽ニシテ皇族ナレト遊蕩兒ナリト聞ク妃タラントスル女ハ伊太利ニモザラニアル貧乏華族ノ娘ナリ新聞ノ無責任ナル論議ニ耳ヲ籍スヘカラス本使ノ言ハ出立前廣田外相ヨリ特ニ訓示セラレタルトコロニ屬ス之ヲ疑フ可カラス」

「ム」曰ク「疑惑全部氷解セリ」

本使曰ク「政治上ハ手出シセサルモ通商上^ハ自由ニ進出スル考ナリ」

「ム」曰ク「安クテ良キモノノ賣レルハ當然ナリ其點ニ對シテハ彼是苦情ヲ言ハサルヘシ」(彼カ斯ク簡單ニ述へ去リタルハ「ヂブチー」「アディスアベバ」間ノ鐵道運賃ニ付伊國貨物ニ有利ナル協定ヲ佛國側ト結ハントシツツアル旨傳ヘラルニ顧ミ鐵道運賃ニテ我方ヲ制壓セントシツツアルニアラサルカ、何レニシテモ此點注意ヲ要スト認ム)

四、支那問題

本使曰ク「伊國側カ「エティオピヤ」問題ニ關心ヲ有セラルヲ想ハハ日本ノ國論カ支那問題ニ付神經銳敏ナルハ余リニモ當然ト稱セサルヘカラス而シテ伊國政府近來ノ對支政策ハ支那ノ觀心^(観心)ヲ買ハンカ爲カ列強ニ援ケ駆シテ種々政治的工作ヲ敢行セラル嫌アリ之カ爲自ラ日本ノ國論ヲ刺戟シ不愉快ナル空氣ヲ漂ハスハ遺憾ナリ」

「ム」曰ク「伊太利ハ國土狹少、人口過剩ナルコト日本ニ過ク吾等ハ生きサル可カラス而シテ之カ爲自分ノ如キ

ハ實ハ日夜四苦八苦シテ方策ヲ講シツツアル次第ニテ此點ハ日本人ニハ直ニ了解シ得ル所ナラン而シテ方策ノ一ハ八方ニ市場ヲ索ムルニ在リ伊國側カ支那市場ニ着眼シタルハ敢テ今日ニ始マリタルニハアラス然レ共支那ニ對スル通商發展ニハ政治工作ノ後援無カル可カラス經濟力主ニテ政治ハ從ナレト通商ノミヲ政治ヨリ切離シテ考フルコト難シ」

本使曰ク「飛行機ノ如キヲ賣込マルハ徒ニ支那ノ内爭ニ利用サルカ日支ノ關係ヲ惡化セシムルカ何レニシテモ我方トシテハ迷惑千萬ナリ」

「ム」曰ク「然ウ誇張シテ言ヒ給フナ、一體支那カ何台伊太利ノ飛行機ヲ買フト思ハルルカ實ハ大シタコトナカナリ然レ共斯ク淡白ニ誤解ノアル所ヲ述ヘラルハ自分ノ性格ニ合ス今後モ支那ニ對スル伊國政府ノ遣口ニ付不審ト想ハルル點アラハ遠慮無ク申出テラルヘシ何時ニテモ悅ンテ面會シ腹藏ナク意見ヲ交換ゼン」(此日ノ會見ニ於テ「ム」ノ態度意外ニ友好的ナリシハ先日ノ會見後「パウルツチー」侯ニ「大ニ失望セリ「ム」ハ日本ヲ重要視セス」ト述ヘタルヲ侯ヨリ内聞シタルカ爲カト察セ

479 昭和9年12月24日 在伊国杉村大使より
広田外務大臣宛

伊国、エチオピア国間の対立に際し我が方の好意的態度を求める在伊国エチオピア国代理公使の内話について

付 記 十二月十一日発在ポートサイド大野(道造)領事代理より広田外務大臣宛電報第二一號

ワルワルにおけるイタリア兵およびエチオビア兵の衝突について

機密第三六一號

(昭和10年1月21日接受)

昭和九年十二月二十四日

在伊

特命全權大使 杉村 陽太郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿
「エチオピア」國ト曰、伊等ノ関係ニ闇スル件

本年十一月二十一日在「ローマ」「エチオピア」國代理公使Negadras Afework Ghevre Yesus本使ヲ來訪シ「エチ

「エチオピア」國トシテハ皇帝以下戦争ヲ爲スカ如キ意嚮ヲ有セサルモ伊國ニシテ攻メ來ル以上ハ「エ」國ハ断乎トシテ之ヲ排撃スヘク之カ爲八十万位迄ノ兵ヲ出スコトヲ得ヘシ只武器ノ缺乏シ居ルハ事實ニシテ之カ供給ヲ白・独ノ商人ニ仰キ居ル次第ナルカ茲ニ最モ笑止ナルハ伊國商人ニシテ「エ」國ニ武器ヲ賣付ケントスルモノア

テ眞ニ心許無シ

付本使ハ之ニ對シ先日「ムツソリーニ」ニ向テ述ヘタルコト(十二月十六日附機密第三五三号往信参照)ヲ繰返シテ話シタル處日本ハ如何ニモ遠方ニテ致方モナシ然シ「エ」國ノ皇帝モ人民モ日本ニ憧憬ノ念ヲ抱キ居ルコトハ之ヲ御承知願度シト云ベリ

四、次テ本使ヨリ曰下ノ處ハ日、「エ」ノ貿易ヲ促進シテ両者ノ利益ヲ計ルコトニ力ヲ注クコト、致度シ日本トシテハ之カ爲代理公使ヲ派遣スル儀モアル次第ナリト説ケルニ之ニ對シ日本品ハ益々販路ヲ開拓スヘシト思フト云ヒ尙自分ノ邸宅カ首府ノ中央ニ在リ且新式建築ナル故之ヲ日本ノ公使館ニ提供シ度ニ付御考慮アリ度シト附言シタルニ付本使ハ其ノ厚意ヲ謝シ置ケリ

五、尚伊國側ニテハ「ムツソリーニ」カ本使ニ云ヘルコト以外ニ「エ」國カ日本人ニ對シ廣大ナル農地ヲ租借シ又ハ土地ニ附帶スル特權ヲフルコトヲ大ニ恐レ居ル如ク特ニ國境方面ニ於テ然ルヲ見ル蓋シ右ハ結局「エ」國蚕食ノ野心ニ基クモノト邪推セシムルニ依ルモノナルベシ

三、同氏ハ更ニ語ヲ續ケ事情右ノ如クナレハ「エ」國トシテハ其ノ頼ミトシ得ルモノ日本以外ニ之ナシト云ヘルニ

オピア」國ト伊國、日本等トノ関係ニ闇シ語ル所アリタルカ右會談ノ模様大体別記ノ通報告スルニ付御查閱相成度此段申進ス

記

(付 記)

本 12月12日前着

第二一號

羅馬電報トシテ當地新聞ノ報道スル處ニ依レハ最近「エチオピア」及伊領「ソマリー」國境地方ナル「ウアルワル」（井水アリ交通上ノ要路ニ當ル）ニ於テ「エチオピア」兵及「ソマリー」兵トノ間ニ一衝突事變發生シ死者六十名負傷四百（以上伊太利側ノ死傷者、「エチオピア」側不明）ヲ生シタルカ右ハ「エチオピア」兵力同地方ニ駐屯セル伊領「ソマリー」兵ヲ攻撃セル爲ナリトナシ伊太利政府ハ「エ」國ニ對シ抗議ヲ爲シツツアリト傳ヘラル又他方「アジスアベバ」ヨリノ「ルーター」通信ニ依レハ本事變ハ前顯地點

ヲ通過スル土民ノ家畜ニ對スル糧秣供給問題ニ關シ關係當局ト商議ノ爲同地方ニ派遣セラレタル英國及「エチオピア」兩國委員ノ護衛兵ニ對シ「ソマリー」兵力攻擊ヲ加ヘタルニ始マレリト報シ「エチオピア」側ハ其ノ責ヲ伊太利側ニ嫁シツツアリ本事變ノ眞相ニ付テハ明カラサルモ從來同方面ノ國境設定並ニ前記家畜糧秣供給問題ニ關シ兩國間ノ關係兎角圓滿ヲ缺ケルニ鑑ミ今事變ハ之ニ其ノ端ヲ發セルモノノ如ク目下「エチオピア」政府ハ伊太利側ノ國境地方ニ於テ七十五哩ニ亘ル「エチオピア」領域ノ軍事的占領並ニ同國境ヨリ百哩ノ地點ニ在ル「ウアルワル」ノ占領ニ對シ伊太利政府ニ抗議ヲ爲セルト共ニ本問題ヲ國際聯盟ニ提議スルニ決シタリト傳ヘラル

2 ブラジルにおける移民制限問題

480 昭和9年1月27日 在サン・パウロ内山總領事より 広田外務大臣宛(電報)

状況悪化傾向にある当國排日法案問題について
在本邦ブラジル大使に外務次官より注意喚
起方稟請

サン・パウロ 1月27日後発
本 省 1月28日前着

第一七號

重光次官へ

今回伯刺西爾憲法議會ニ於ケル排日修正案ハ往年「ファイデンスレイス」案ノ暗示ヲ受ケ潛行的ニ計畫セラレ居タルコト大使館ヨリノ隨時報告ノ通ニシテ其ノ性質ハ前記「レイス」案提出當時ニ優リ根據深キ上政界不安定ニ依リ之ヲ抑制スルニ信賴スヘキ人物及方法無ク此際之カ對策ヲ誤ルニ於テハ日本移民ノ將來ニ取り重大ナル禍根ヲ殘スモノト認

(欄外記入)
メラル處「リオ」ニ於テハ外務大臣カ昨年末以來辭職ノ儘ナル上林大使ハ時局ニ對シ當方ト見解ヲ異ニスルモノノ件
大急[○]
(欄外記入)
關係說明アリ度シ

873